

# 誰でも作れる

## 俳句のヒント②

「世界一短い詩」とも言われる『俳句』。子どもにとっては、文字数が少ないだけに、作文よりも、詩よりも、短歌よりも「簡単に作れる！！」と思っているかもしれませんが、でも、限られた文字数の中で、読み手に色々なことを想像させたり、感動を伝えたりしなければならないので、本当は「一番難しい」のかもしれませんが。

そこで、俳句作りの準備運動をまとめた「俳句のヒント①」に続いて、よい俳句に仕上げていくためのヒントをまとめてみました。

### 2. よい俳句に仕上げるために

ただ単に、「五・七・五」の文字数におさまっていて、その中に「季語」が入っていれば『俳句』と言えるかもしれませんが、でも、だからといってそれが、「よい俳句」かどうかは別の問題です。そこで、よい俳句に仕上げるためのコツをいくつか紹介していきます。



#### ①感動した瞬間をとらえること！！

当たり前のことですが、限られた文字数の中で、あれもこれもを取り込んで表現することは不可能に近いものがあります。また、仮にいくつかのことを入れることができたとしても、1つ1つの表現が乏しくなり、結局何が言いたいのかが伝わりません。俳句にしようと思ったこと（＝感動したこと）がいくつもあったとしても、それらを全て含めようとするのではなく、その中でも一番伝えたいことを選び、さらに、その一瞬（＝感動の瞬間）を表現することを心がけてみてください。

#### ②動詞を少なく！！

「馬が走る」や「鳥が鳴く」などの「何がどうする」の「どうする」にあたるところが動詞です。動詞を使うと、何がどうしたかはよく分かりますが、俳句では分かりすぎて間のびしてしまうことがあります。

(例) 「雨がふる 流れる水に あやめ咲く」 「日がしずみ 月が出る山 見て帰る」



どちらも、動詞が1句の中に3つも4つもあり、説明的になりすぎています。雨はふるもの、水は流れるもの、あやめは咲くものです。言わなくてもわかることを、できるだけ省略しましょう。

#### ③さらに省略する！！



俳句は「省略の文学」とも言われています。そして、省略するのは②の動詞だけではありません。その他にも「形容詞」や「形容動詞」などで、無駄に言葉を使う俳句が見られます。

(例) 「クリスマス プレゼント開け 嬉しそう」 「卒業に 感極まって 涙する」

「嬉しそう」も「感極まって」も、共にその時の感情を示すものです。当然、作者の思いの中には「嬉しかった」「感極まった」ということがあったことは分かります。でも、表現が直接的すぎると思いませんか。プレゼントは誰にとっても嬉しいことですし、卒業で涙するというのは感極まった証拠でもあります。つまり、直接気持ちをあらわす言葉を使わなくても伝わる場合は、思い切って省略して、他の表現を考えてみましょう。

## ④ 「切れ字」を使う

限られた文字数で表現しなければならない俳句には、さまざまな「工夫」が必要になります。その中でも、俳句の特色とも言われる「切れ字」がその1つになります。では、「切れ字」とは何でしょうか？次の3人の俳句を読んでみてください。

夏草や	つわものどもが	夢の跡（あと）	（松尾芭蕉）
雲焼けて	静かに夏の	夕（ゆうべ）	かな（高浜虚子）
六十年	踊る夜もなく	過ぎし <u>けり</u>	（小林一茶）



上記の3句にある「や」「かな」「けり」が「切れ字」の代表的なものです。「夏草や」の「や」のところで意味を切り、「かな」や「けり」は句の終わりにつくことで、言い切った形となり、句をはっきりと結ぶ働きを果たしています。そして、その効果としては、一言で言えば「詠嘆の気持ち」を表すこととなります。つまり、「心の中の感動（＝心の中で強く感じた気持ち）」です。具体的には、しみじみとした感じ、悲しい気持ち、さびしい気持ち、うれしい気持ち、楽しい気持ちなどを、それぞれの切れ字によって表すことができるのです。

ただ、やみくもに「切れ字」を使うことは逆効果になる恐れもあります。場合によっては、俳句が形式的なものになったり、何の感動もないものになったりするかもしれません。慣れないうちは、無理に使おうとせず、色々な人の俳句を読んでいくことで、使う感覚を身に付けていくことがいいかもしれませんね。

## ⑤ 言葉を選ぶ

同じような意味をもつ言葉はたくさんありますが、その中でどの言葉を選ぶかによって、伝えたいことがより伝わったり、俳句の良し悪しが変わってきたりします。

(例) 夕立が 土の香りを	}	持ってくる
		運んでくる
		運びくる



上の例で言えば、香りを「持ってくる」のか「運んでくる」のかで言葉の選択をした場合、断然「運んでくる」の方が合いますね。でも、「運んでくる」は、いかにも口語調で、話しているようなので、そこを「運びくる」と文語調にすると俳句が落ちついた感じになりますね。

(例) 入学児 校門	}	とおりに
		くぐりに
		に来て



次の例は、選ぶ言葉によって、その読んだ人が想像する状況が変わってきます。「とおりに」と「くぐる」はどちらも、校門をとおる（くぐる）瞬間を捉えていることは同じですが、「とおる」と「くぐる」で、想像される校門のイメージが変わってきませんか？特に、「くぐる」とした場合、校門が何かアーチ状になっていることを想像させますよね。また、「に来て」を選べば、これから「とおる（くぐる）」ことを想像させます。つまり、作者がどのタイミングで、こういった状況において感動したことを俳句にしたいのかによって選ぶべき言葉が変わってくるということです。

いかがでしたか？読んでもらったことが、俳句作りの参考になれば幸いです。この資料を作りながら、「言葉の力ってすごい！！」ということを実感しました。よく考えれば、俳句作りは「究極の言葉あそび」かもしれません。ぜひ、それぞれのご家庭で、親子で俳句作りを楽しんでください。

《参考図書》「俳句をつくろう」（著：藤井國彦／出版：さ・え・ら図書館）